

## 第 30 回（生活支援）分科会報告書

1. 開催日時：平成 27 年 6 月 24 日（水）15：30～17：00

2. 開催場所：やめっこ未来館 2 階

3. 参加者（所属のみ）

八女市社協、南筑後保健福祉環境事務所、八女市東部包括、夢工房、陽だまりの里、八女作業所、蓮の実園、年輪の園、若楠園、飛形学園、紫雲英の郷、八女市、リーベル

4. 実施内容

○平成 27 年度生活支援分科会事業計画について報告

○講演：『地域に育まれて、貴喜（よしき）らしく暮らしています』

講師：当事者 I 氏のお母様

初めに本人の人となり分かる、DVD を鑑賞。幼少時から、高等部卒業後、陽だまりのグループホームの生活まで。誕生から、今までの生活を語られる。

・父親と兄たちと一緒に、地域の剣道道場に参加。生まれてから地域で生活することを考え、本人のことを知ってもらった、育ててもらった。良き先生に恵まれた。

・小学校では、一緒のクラスでは勉強して欲しくないと言われたこと、その時にご主人から「分かっていたことだろう」と言われ、奮起出来た。

・こぶたの会の立ち上げ。



・小中学校は、集団登校。絶対に送って行かなかった。兄が集団登校で苦勞していたことを知った。親の知らない所で兄や妹は苦勞していたと思う。

・妹にも学生の時は、寂しい思いをさせていたことなど、講演に際し、昔の連絡帳を読み返し発見があった。今は本人大好きな演歌のコンサートのチケットを手配してくる優しい妹になった。

※本人の恩師からの挨拶や手紙の披露がある。

※学生時代の連絡帳や壁新聞などが宝物。大切に保管され、会場に掲示されている。

○フロアから

陽だまりの里…本人には人を引き付ける何かがある。スタッフの忘れ物に直ぐに気が付く。母親がグループホームの生活が始まった時に「ここで自立せやんとよ。」と言われた言葉がとても印象深い。

西中学校…小中学生の夏休みの過ごし方、支援を知らなかった。どこから知るのか？

保護者…非常に参考になった。

筑特教諭…ある面サービスが増えて来たが、地域との接点が減ってきている(親の安心はあるが…)地域へ出る取り組みも欲しい。

